

第260回 日本循環器学会関東甲信越地方会

日 時 令和3年6月19日(土)
開催形式 Web開催 (LIVE配信) ※会場での開催はございません
配信チャンネル: Web特設視聴サイト 第I会場～第V会場
開催URL http://www2.convention.co.jp/jcs-kanto/chihoukai/kanto_260.html
会 長 防衛医科大学校循環器内科
足立 健

御 案 内

1. 参加費: 会員 3,000円
初期・後期研修医、コメディカル 1,000円
医学部学生 無料 ※学生証必須
2. オンライン参加登録: http://www2.convention.co.jp/jcs-kanto/chihoukai/kanto_260.html
受付期間: 6月1日(火) 正午～6月19日(土) 18:00
3. プログラム: 教育セッション
会長企画セッション
研修医セッション
学術委員会セッション
ダイバーシティ・フォーラム
スポンサードセミナー
Awardセッション
一般演題
4. 一般演題発表時間: 口演5分、質疑2分
5. Award: Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Awardを設け、各Award最優秀賞、優秀賞を顕彰いたします。
審査委員による第一次書類審査の選考後、地方会当日発表による二次審査で審査委員から発表者に対し質疑応答を行います。(開催時間 17:10～18:00。口演6分、質疑4分)
なお、以下の項目が審査の対象となります。
1) 正しい医学用語の使用 4) 質問に対する応答
2) 発表時間の厳守と態度 5) 循環器臨床に対する貢献度
3) 考察
審査結果は会期終了後、地方会HPに掲載いたします。
6. 専門医単位登録: 第260回地方会では下記単位の取得が可能です。
 - 地方会参加単位 (5単位必修)
オンライン参加登録後、260回Web視聴サイトにログインされた方に地方会参加単位を付与いたします。
 - 教育セッション単位 (3単位必修)
オンライン参加登録後、260回Web視聴サイトにて教育セッションを視聴された方に、教育セッション単位を付与いたします。視聴時間が規定未満の場合や、視聴ボタンの押し忘れは単位が付与されませんのでご注意ください。
※単位取得方法の詳細は地方会HPに記載いたします。
※日本循環器学会単位の反映には会期終了後しばらくお時間をいただきます。
反映後は会員ポータルサイトでご確認いただけるようになります。

次回地方会: 第261回地方会は次の通りです。

日 時: 令和3年9月6日(月)～9月12日(日)
開催形式: Web開催 (オンデマンド配信予定)
会 長: 明石 嘉浩 (聖マリアンナ医科大学 循環器内科)

【座長・演者へのご案内】

1. 座長・演者のセッション出演方法

講演はすべてリモートでご登壇頂きLIVE配信致します。

座長演者は任意の場所よりご自身のPCで事務局が用意するZoomからセッションにご参加いただきます。(視聴者はZoomには直接入らずWeb特設視聴サイトから閲覧いただきます)

- ・インターネットにつながる通信環境がよい場所で接続のご準備をお願いいたします。
- ・極力静かな場所で雑音が入らないようお願いいたします。
- ・お持ちのPCにカメラ、スピーカー、マイクが付属されているかご確認ください。可能な限り、マイク付きイヤホンやヘッドセットマイクなどをご使用ください。
- ・ご自身のPC上では、セッション中に不要なアプリケーションは全て閉じてください。

2. 座長・演者の事前オリエンテーション

会期当日、Zoomにてオリエンテーションや進行説明を行います。

オリエンテーション開始時間は個別にご案内致します。

3. 発表方法

演者発表はZoom上でご自身にてスライド画面共有のうえご講演いただきます。

発表スライドは「16：9」での作成を推奨いたします。

OSやアプリケーションの制限はございません。

4. 視聴者からの質疑

Web特設視聴サイトにてチャットで受け付けます。

座長演者にはZoom上で質問内容を転送します。質問の採択は座長に一任致しますので内容を読み上げていただき、演者は口頭でご回答ください。

5. 利益相反の開示（演者のみ）

一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部運営内規の（地方会）第11条14に、「地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。」と定められております。

日本循環器学会利益相反（COI）ページを参照のうえ、発表時にCOI状態のスライド開示をお願いします。

http://www.j-circ.or.jp/coi/coi_index.htm

第260回日本循環器学会関東甲信越地方会 (WEB開催)

配信日程：2021年6月19日 (土)

開催形態：Live配信

会長：防衛医科大学校循環器内科 足立 健

	第Ⅰ会場	第Ⅱ会場	第Ⅲ会場	第Ⅳ会場	第Ⅴ会場
8:55	開会挨拶				
9:00	企画セッションⅠ 9:00-10:24 各都県による循環器病 対策推進の取り組み	9:00 セッションⅡ-1 9:00-9:28 先天性心疾患 9:28 休憩 9:50 セッションⅡ-2 9:50-10:25 心不全・高血圧 10:25 休憩	9:00 セッションⅢ-1 9:00-9:28 心筋炎・心筋症 9:28 休憩 9:50 セッションⅢ-2 9:50-10:25 デバイス 10:25 休憩	9:00 セッションⅣ-1 9:00-9:42 弁膜症・心内膜炎 9:42 休憩	9:00 セッションⅤ-1 9:00-9:21 静脈・肺高血圧 9:21 休憩
10:24					
10:30	研修医セミナー 10:30-11:30 研修医のうちから 知っておきたい医療 統計と症例報告論文 の基礎	10:40 スポンサーセミナーⅠ 10:40-11:30 SGLT2阻害薬が変 える糖尿病治療	10:40 スポンサーセミナーⅡ 10:40-11:30 心房細動に対する治 療戦略：カテーテル アブレーションとAKB による抗凝固療法	10:40 スポンサーセミナーⅢ 10:40-11:30 積極的脂質低下療法 の意義とPCSK9阻 害薬への期待	10:40 スポンサーセミナーⅣ 10:40-11:30 虚血性心疾患評価に おけるFFRとCFR評価
11:30	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
11:40	スポンサーセミナーⅤ 11:40-12:30 血管不全と心不全の 連関	11:40 スポンサーセミナーⅥ 11:40-12:30 心不全治療の最新 Update	11:40 スポンサーセミナーⅦ 11:40-12:30 心房細動早期発見、 早期治療の重要性	11:40 スポンサーセミナーⅧ 11:40-12:30 出血併症を重視し た冠動脈疾患に対す る抗血栓療法	休憩
12:30	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
12:50	教育セッションⅠ 12:50-14:20 血管機能不全	12:50 教育セッションⅡ 12:50-14:20 実践 心不全診療 -Up To Date	12:50 セッションⅢ-3 12:50-13:32 不整脈1 13:32 休憩 13:50 セッションⅢ-4 13:50-14:32 不整脈2 14:32 休憩	12:50 セッションⅣ-2 12:50-13:25 虚血性心疾患1 13:25 休憩 13:50 セッションⅣ-3 13:50-14:32 虚血性心疾患2 14:32 休憩	12:50 セッションⅤ-2 12:50-13:18 末梢血管・大動脈 13:18 休憩
14:20	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
14:30	企画セッションⅡ 14:30-16:00 「防衛医学」自衛隊 医官と新型コロナ 感染症対応	14:30 第7回 ダイバーシティ・フォーラム 14:30-16:00 第3回めざせ循環器 専門医！循環器専門 医試験対策セミナー	休憩	15:00 セッションⅣ-4 15:00-15:42 心臓・腫瘍・ 腫瘍循環器 15:42 休憩	15:00 学術委員会セッション 15:00-16:30 心不全治療の残された 課題 HFpEFに挑む 期待される新しい治療
16:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
16:10	スポンサーセミナーⅧ 16:10-17:00 糖尿病治療の進歩と GLP-1受容体作動薬	16:10 スポンサーセミナーⅨ 16:10-17:00 心房細動の有無で 考える心不全患者の 抗凝固療法	16:10 スポンサーセミナーⅩ 16:10-17:00 肺高血圧症の病態及 び早期診断の基本	16:10 スポンサーセミナーⅪ 16:10-17:00 明日からの循環器診 療に役立つ漢方処方	16:30 休憩
17:00	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩
17:10	Clinical Research Award 17:10-18:00	Case Report Award 17:10-18:00	Resident Award 17:10-18:00	Student Award 17:10-18:00	17:10 スポンサーセミナーⅫ 17:10-18:00 TAVI Optimization
18:00	閉会挨拶				

第 I 会場

企画セッション I

9:00-10:24

各都県による循環器病対策推進の取り組み

座長 (東京大学大学院医学系研究科 心臓外科) 小野 稔
座長 (筑波大学医学医療系 循環器内科) 家田 真樹
座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 足立 健

脳卒中・循環器病対策基本法成立から基本計画、そして推進計画の策定へ
(東京大学大学院医学系研究科循環器内科学) 小室 一成

循環器病対策推進一埼玉県の取り組み

(防衛医科大学校 循環器内科) 足立 健

茨城県循環器病対策検討体制のこれまでと循環器病対策基本法施行に伴う改編

(茨城県立中央病院 循環器内科) 武安 法之
(茨城西南医療センター病院 循環器内科) 前田 裕史
(水戸協同病院 循環器内科) 渡辺 重行
(筑波大学 医学医療系 循環器内科) 家田 真樹

東京都の循環器病対策推進の取り組み

(日本医科大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野) 清水 渉

神奈川県における取り組み

(東海大学 循環器内科) 伊苺 裕二

栃木県における循環器医療の現状と対策

(獨協医科大学 先端医科学研究センター) 井上 晃男

群馬心不全地域連携協議会の取り組みについて

(群馬大学 循環器内科) 倉林 正彦
(群馬県立心臓血管センター) 安達 仁、村田 誠
(前橋赤十字病院) 丹下 正一、星野 圭治
(群馬大学医学部附属病院) 小保方 優
(群馬県医師会 川島内科クリニック) 川島 崇

山梨県における循環器病対策推進の現況

(山梨大学医学部附属病院 第二外科) 中島 博之
(山梨大学医学部附属病院 第二内科) 尾畑 純栄

長野県における循環器病対策推進計画策定への取り組み状況

(信州大学 医学部 循環器内科) 桑原宏一郎

新潟県における循環器病対策推進事業の状況

(新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学) 猪又 孝元

研修医セミナー

10:30-11:30

研修医のうちから知っておきたい医療統計と症例報告論文の基礎

座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 難波 貴之
座長 (防衛医科大学校病院 循環器内科・集中治療部) 東谷 卓美

観察研究のデータ解析～多変量解析の使い方～

(大阪市立大学 大学院医学研究科 医療統計学) 新谷 歩

オールインワン経験症例を論文発表するTips

(神戸大学大学院 地域医療支援学部門/兵庫県立丹波医療センター 地域医療教育センター)

見坂 恒明

スポンサードセミナーⅤ
血管不全と心不全の関連

11:40-12:30

共催：アストラゼネカ株式会社/小野薬品工業株式会社
座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 足立 健

(佐賀大学 内科学講座)

野出 孝一

教育セッションⅠ
血管機能不全

12:50-14:20

座長 (防衛医科大学校病院 集中治療部、入間ハート病院) 高瀬 凡平
座長 (防衛医科大学校病院 集中治療部) 眞崎 暢之

FMDについて

(北里大学病院 循環器内科)

東條美奈子

EndoPATによる血管機能評価と心血管予後

(防衛医科大学校病院 循環器内科・集中治療部)

東谷 卓美

予後予測指標としてのPWVの可能性

(東京医科大学 循環器内科学分野)

椎名 一紀
富山 博史

企画セッションⅡ

14:30-16:00

「防衛医学」自衛隊医官と新型コロナウイルス感染症対応

座長 (防衛医科大学校 防衛医学講座) 清住 哲郎
座長 (自衛隊中央病院 循環器内科) 木村 豊和

イントロダクション：防衛医大と防衛医学

(防衛医科大学校 防衛医学講座)

清住 哲郎

病院勤務の視点から ～ 医師たる幹部自衛官とは ～

(自衛隊中央病院 循環器内科)

木村 豊和

部隊勤務の視点から～新型コロナウイルス(COVID-19)流行下における対特殊武器衛生隊の活動概要～

(防衛医科大学校 防衛医学講座 兼 循環器内科)

石神 徳郎

(防衛医科大学校 防衛医学講座)

川本 博嗣、荒木 義之、清住 哲郎

(陸上自衛隊 対特殊武器衛生隊)

山本 哲生

(防衛医科大学校 循環器内科)

足立 健

自衛隊病院での新型コロナ対応

(自衛隊佐世保病院 感染症内科)

田村 格

スポンサードセミナーⅥ

16:10-17:00

糖尿病治療の進歩とGLP-1受容体作動薬

共催：MSD株式会社

座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 足立 健

(順天堂大学大学院医学研究科 代謝内分泌内科学)

綿田 裕孝

Clinical Research Award

17:10-18:00

座長 (榊原記念病院 循環器内科) 吉川 勉
 座長 (防衛医科大学校 神経・抗加齢血管内科) 池脇 克則
 審査委員長 (獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科) 井上 晃男
 審査委員 (横浜市立大学附属病院 循環器内科) 石川 利之
 審査委員 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 佐野 元昭
 審査委員 (東京医科歯科大学 循環器内科) 笹野 哲郎

I-1 左室下壁誘導に及ぶJ波は冠動脈狭窄の無い心室細動サバイバーにおける心筋線維化、脂肪変性を予測できる

(千葉大学 医学部 医学科) 岡本 昌大
 (千葉大学 医学部 循環器内科学) 船橋 伸禎、小林 欣夫
 (群馬県立心血管センター 循環器内科) 中村 紘規、佐々木健人、内藤 滋人

I-2 至適拡張時間を考慮し設定した目標心拍数が急性心不全入院患者の長期予後予測に与える影響についての検討

(防衛医科大学校循環器内科) 弓田 悠介
 長友 祐司、足立 健
 (杏林大学医学部循環器内科) 合田あゆみ、河野 隆志
 (済生会中央病院循環器内科) 武井 眞
 (聖路加国際病院循環器内科) 西畑 庸介
 (榊原記念病院循環器内科) 佐地 真育、吉川 勉
 (埼玉医科大学国際医療センター循環器内科) 豊崎 雄一
 (東京医療センター循環器内科) 池上 幸憲
 (慶応義塾大学医学部循環器内科) 庄司 聡、白石 泰之、香坂 俊

I-3 心臓CTを用いたExtra-Cellular Volume解析は肥大型心筋症患者における心室性不整脈予測に有用である

(東千葉メディカルセンター 循環器内科) 浅田 一成
 後藤 宏樹、若林 慎一、金枝 朋宜、上田 希彦、
 佐野 剛一
 (千葉大学医学部附属病院 循環器内科) 高岡 浩之、高橋 愛、八島 聡美、佐々木晴香、
 江口 紀子、小林 欣夫

I-4 大規模多施設前向きレジストリデータを用いた心房細動患者における心不全入院予測モデルの構築

(順天堂大学医学部附属順天堂医院) 石井 開
 末永 祐哉、林 英守、宮崎彩記子、南野 徹
 (順天堂江東高齢者医療センター) 宮内 克己
 (順天堂大学保健医療学部) 代田 浩之

I-5 2型糖尿病合併急性心筋梗塞症例に対するエンパグリフロジンの体組成への影響

(日本医科大学付属病院 循環器内科) 星加 優
 久保田芳明、茂澤 幸右、太良 修平、時田 祐吉、
 淀川 顕司、岩崎 雄樹、山本 剛、高野 仁司、
 塚田 弥生、浅井 邦也、宮本 正章、清水 渉
 (日本医科大学千葉北総病院 循環器内科) 宮内 靖史
 (日本医科大学多摩永山病院 循環器内科) 小谷英太郎
 (日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科) 丸山 光紀
 (静岡医療センター 循環器内科) 田邊 潤

第Ⅱ会場

セッションⅡ-1 先天性心疾患

9:00-9:28

座長（聖路加国際病院 心血管センター 循環器内科）椎名 由美
座長（慶應義塾大学医学部 循環器内科）金澤 英明

- Ⅱ-1 Fallot四徴症術後の高度両心不全を伴う重症肺動脈弁閉鎖不全症に対し、肺動脈弁置換術が奏功した1例
（慶應義塾大学病院 循環器内科） 森泉 友斉
岩澤 佑治、藤澤 大志、岸野 喜一、白石 泰之、
遠山 周吾、勝俣 良紀、湯浅 慎介、福田 恵一
（慶應義塾大学病院 心臓血管外科） 木村 成卓
- Ⅱ-2 外科的切除後の病理学的検討で腹部内臓動脈瘤に類似した所見を認めた冠動脈痙攣動脈瘤の1例
（川崎市立井田病院 心臓血管外科） 森 厚夫
（川崎市立井田病院 循環器内科） 原田 裕子、小西 宏明、好本 達司
（川崎市立川崎病院 心臓血管外科） 井上 慎也
（川崎市立川崎病院 病理部） 折笠 英紀
- Ⅱ-3 Cone手術とカテーテル心房中隔閉鎖術を段階的に行うことで良好な経過を得たEbstein病 60歳代女性の一例
（筑波大学 医学群医学類） 山崎 涼太
（筑波大学 循環器内科） 川松 直人、町野 智子、星 智也、石津 智子、
家田 真樹
（筑波大学 心臓血管外科） 加藤 秀之、松原 宗明、平松 祐司
- Ⅱ-4 心雑音を契機に発見された右冠動脈本幹全長が瘤化した冠動静脈瘻の一例
（新潟県立新発田病院 循環器内科） 秋山 琢洋
大越 雄貴、高野 俊樹、吉田 剛、田辺 恭彦
（聖路加国際病院 心血管センター 心臓血管外科） 阿部 恒平

セッションⅡ-2 心不全・高血圧

9:50-10:25

座長（さいたま市立病院 循環器内科）神吉 秀明
座長（自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科）和田 浩

- Ⅱ-5 脳アミロイドアンギオパチーが疑われるうっ血性心不全に巨大心内血栓を形成し脳梗塞を合併した1例
（東京慈恵会医科大学附属第三病院） 宮西麻美菜
王 琢矢、船木 隆司、横山 賢一、山田 崇之、
香山 陽介、滝沢信一郎、森 力、芝田 貴裕
（東京慈恵会医科大学附属病院） 吉村 道博
- Ⅱ-6 右室心内膜心筋生検後に左室内血栓を生じた一例
（東京都立広尾病院 初期研修医/東京都立広尾病院 循環器科） 原 わかな
（東京都立広尾病院 循環器科） 稲垣 大、佐々木高史、高橋 怜、原野 義大、
辻畑志帆子、竹田 康佑、山岡広一郎、新井 智之、
川尻 紘平、田邊 翔、時岡紗由理、吉田 精孝、
木村 高志、高橋 正雄、増田 怜、北村 健、
北條林太郎、土山 高明、深水 誠二、渋谷 敬志
- Ⅱ-7 70kg除水を行い3ヶ月間の無尿期間を経て透析離脱した拡張型心筋症の一例
（千葉大学医学部附属病院 循環器内科） 小野 亮平
岩花 東吾、加藤 央隼、小林 欣夫
（千葉大学医学部附属病院 人工臓器部） 服部 憲幸

II-8 急性心不全症例における経口栄養開始時期と院内予後の関係

(東京大学医学部付属病院)

伊東 秀崇

桐山 皓行、加門 辰也、森田 啓行、小室 一成

(東京大学医学部先進循環器病学講座)

金子 英弘、藤生 克仁

(東京大学医学部臨床疫学・経済学教室)

森田光治良、康永 秀生

(東京大学大学院医学系研究科 ヘルスサービスリサーチ講座)

道端 伸明、城 大祐

II-9 血圧高値に対する特定保健指導の効果について

(防衛医科大学校病院 循環器内科/帝京大学公衆衛生大学院)

峰 政貴

(防衛医科大学校病院 循環器内科)

足立 健

(防衛医科大学校病院 集中治療部)

眞崎 暢之

(帝京大学公衆衛生大学院)

福田 吉治

スポンサードセミナー I

10:40-11:30

共催：日本イーライリリー株式会社/日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

SGLT2阻害薬が変える糖尿病治療

座長 (さいたま市民医療センター) 百村 伸一

(群馬大学 名誉教授)

倉林 正彦

スポンサードセミナー VI

11:40-12:30

共催：大塚製薬株式会社

心不全治療の最新 Update

座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 長友 祐司

(名古屋市立大学大学院医学研究科 循環器内科学)

瀬尾 由広

教育セッション II

12:50-14:20

実践 心不全診療 -Up To Date

座長 (杏林大学医学部 循環器内科学教室) 河野 隆志

座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 長友 祐司

HFpEFについて真面目に考えたことありますか？

(防衛医科大学校 循環器内科)

長友 祐司

心不全診療において心エコーでみるべきポイント

(榑原記念病院 循環器内科)

泉 佑樹

心不全診療と意思決定支援 —アドバンスケアプランニングも踏まえて—

(杏林大学医学部 循環器内科学教室)

河野 隆志

第7回ダイバーシティ・フォーラム

14:30-16:00

第3回めざせ循環器専門医！循環器専門医試験対策セミナー

座長 (東京女子医科大学 循環器内科) 佐藤加代子

感染性心内膜炎の新しい側面—何が変わってきているのか？

(東京女子医科大学 循環器内科)

芦原 京美

循環器専門医試験対策セミナー過去問解説

(北里大学病院 循環器内科)

東條美奈子

スポンサーセミナーX 16:10-17:00
心房細動の有無で考える心不全患者の抗凝固療法

共催：バイエル薬品株式会社
座長 (獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科) 豊田 茂

(新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学) 猪又 孝元

Case Report Award 17:10-18:00

座長 (獨協医科大学埼玉医療センター 循環器内科) 田口 功
座長 (千葉大学大学院医学研究院 循環器内科学) 小林 欣夫
審査委員長 (埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科) 岩永 史郎
審査委員 (東京女子医科大学 循環器内科) 萩原 誠久
審査委員 (慶應義塾大学 外科 (心臓血管)) 志水 秀行
審査委員 (日本医科大学 循環器内科) 岩崎 雄樹

II-10 難治性心臓サルコイドーシスに対し第二選択薬を用いた6例の検討
(東京大学医学部附属病院 循環器内科)

石塚 理人
上原 雅恵、進藤 彰人、石田 純一、網谷 英介、
瀧本 英樹、小室 一成

II-11 心室中隔穿孔に対するIMPELLAの血行動態改善効果: Swan-Ganzカテーテルを用いた検討
(埼玉石心会病院 循環器内科)

岩崎 司
荒巻 和彦、山根 正久

II-12 60代で心不全・肺高血圧症を来したShone複合と診断され大動脈縮窄に対する介入で血行動態の改善を得た一例

(防衛医科大学校循環器内科) 阪本 愛実
弓田 悠介、鏡 和樹、樽岡 輝、姫野 雅史、
安田理紗子、東谷 卓美、難波 貴之、眞崎 暢之、
長友 祐司、足立 健
(防衛医科大学校心臓血管外科) 堤 浩二、田口 眞一
(済生会宇都宮病院心臓血管外科) 橋詰 賢一

II-13 たこつば症候群に合併した左室流出路狭窄、急性僧帽弁閉鎖不全症にてショックとなった一例
(東海大学医学部附属病院 循環器内科)

石崎 祐弥
村上 力、森瀬 昌裕、李 勅熙、堀之内仁美、
坂間 晋、綾部 健吾、柳下 敦彦、吉岡公一郎、
伊莉 裕二

II-14 遺伝子解析を行った左室緻密化障害による心不全の一例

(国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 循環器内科) 峯本 麻由
中川 堯、山本 正也、原 久男、廣井 透雄
(国立研究開発法人 国立国際医療研究センター メディカルゲノムセンター) 森 幸太郎、岡崎 敦子、加藤 規弘

第Ⅲ会場

セッションⅢ-1 心筋炎・心筋症

9:00-9:28

座長 (東海大学医学部 内科学系循環器内科) 永井 知雄
座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 遠藤 仁

Ⅲ-1 電気解剖学的マッピングガイド下心筋生検により特異的病理所見が得られた心臓サルコイドーシスの1例
(日本医科大学付属病院 循環器内科)

高橋 應仁
林 洋史、野間さつき、村田 広茂、澁川 顕司、
時田 祐吉、岩崎 雄樹、高野 仁司、清水 渉
功刀しのぶ

(日本医科大学付属病院 病理診断科)

Ⅲ-2 同部位の壁運動障害を繰り返したたこつぼ心筋症の一例

(日本医科大学付属病院 臨床研修センター)
(日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科)

小田 光璃
宮地 秀樹、渡邊 将央、山田 健太、茂澤 幸右、
岡 英一郎、杉崎陽一郎、塩村 玲子、松田 淳也、
中田 淳、山本 剛

(日本医科大学付属病院 循環器内科)

(日本医科大学付属病院 心臓血管集中治療科/日本医科大学付属病院 循環器内科)

林 洋史
清水 渉

Ⅲ-3 冠動脈疾患を伴い、拡張型心筋症として加療されたが、病理解剖にてファブリー病と診断された一例

(JA長野厚生連 北信総合病院 循環器内科)

出雲 悠介
山本 勇輝、清水 貴裕、渡辺 徳

Ⅲ-4 心臓限局性サルコイドーシスと診断した3例

(済生会宇都宮病院 循環器内科)

松村 聡人
上野 耕嗣、下地顕一郎、横田 裕之、森 健文、
八島 史明、西田 裕明、古瀬 領人、岩堀 浩也、
須藤 究、野間 重孝

セッションⅢ-2 デバイス

9:50-10:25

座長 (杏林大学医学部 不整脈先進治療学研究講座) 佐藤 俊明
座長 (公益財団法人 日本心臓血管研究振興会付属 神原記念病院 循環器内科) 長瀬 宇彦

Ⅲ-5 Pacemaker植込み17年後に上昇した心室ペーシング閾値がステロイド導入後改善した心サルコイドーシスの1例

(土浦協同病院 循環器内科)

大屋 寛章
金地 嘉久、野上 開、平野 秀典、原 聡史、
佐藤 慶和、三輪 尚之、山尾 一哉、久佐 茂樹、
蜂谷 仁

Ⅲ-6 皮下植え込み型除細動器の交換時にノイズを検出した一例

(群馬大学 医学部附属病院 循環器内科)

長谷川 寛
金古 善明、中島 忠、田村峻太郎、倉林 正彦、
小針 堯司

Ⅲ-7 左脚ペーシングを施行した完全房室ブロックの一例

(昭和大学横浜市北部病院 循環器内科)

井川 渉
山下賢之介、小野 盛夫、斎藤 惇平、飛鳥井 邑、
嶋津 英、木村 太郎、大山 祐司、木戸 岳彦、
荏原誠太郎、岡部 俊孝、山本 明和、雨宮 妃、
磯村 直栄、落合 正彦

Ⅲ-8 右鎖骨下動脈に誤挿入された中心静脈カテーテルをPROGLIDE®を用いて抜きし良好な止血を得た一例
(国家公務員共済組合連合会 虎の門病院) 田中 亮平
藤原 秀臣、播磨 綾子、大津 裕、山口 徹雄、
藤本 陽、児玉 隆秀

Ⅲ-9 失神精査入院では診断できず退院日に捉えられた一過性完全房室ブロックの一例
(東京慈恵会医科大学 柏病院 循環器内科) 安武 れい
宮永 哲、奥山 虎章、前原 智紀、福島 啓介、
樺 敬人、吉田 律、大木 理次、白崎 圭輔、
久保田健之、小武海公明
(東京慈恵会医科大学 循環器内科) 吉村 道博

スポンサードセミナーⅡ 10:40-11:30 共催： Bristol・マイヤーズ スクイブ株式会社/ファイザー株式会社
心房細動に対する治療戦略：カテーテルアブレーションとAKBによる抗凝固療法 座長 (国際医療福祉大学三田病院 心臓血管センター 循環器内科) 矢田 浩崇
(東邦大学大学院医学研究科 循環器内科学) 池田 隆徳

スポンサードセミナーⅦ 11:40-12:30 共催：第一三共株式会社
心房細動早期発見、早期治療の重要性 座長 (防衛医科大学校 循環器内科) 池上 幸憲
(杏林大学医学部付属病院 循環器内科) 副島 京子

セッションⅢ-3 12:50-13:32
不整脈1 座長 (獨協医科大学埼玉医療センター 循環器内科) 中原 志朗
座長 (国際医療福祉大学三田病院 心臓血管センター) 矢田 浩崇

Ⅲ-10 不整脈源性を伴った下肺静脈共通幹の解剖に応じた隔離に成功した一例
(日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科) 伊藤 紳晃
丸山 光紀、野原 剛、坪井 一平、石原 嗣郎
(日本医科大学付属病院 循環器内科) 岩崎 雄樹、清水 渉、新井 俊貴、伊藤かな子、
岡 英一郎、小林 義典、蜂須賀誠人、藤本 雄飛、
三室 嶺、村田 広茂、淀川 顕司、林 洋史、
山本 哲平

Ⅲ-11 Marshall veinからのPPIがAT回路同定に有用であった症例
(昭和大学横浜市北部病院 循環器内科) 小野 盛夫
山下賢之介、伊藤 有輝、大倉 武、宜保 雄磨、
飛鳥井 邑、木村 太郎、齋藤 惇平、嶋津 英、
大山 祐司、木戸 岳彦、井川 渉、荻原誠太郎、
岡部 俊孝、磯村 直栄、落合 正彦

Ⅲ-12 Focal AT ablationにより顕在化したマクロリエントリー性心房頻拍の1例
(昭和大学横浜市北部病院 循環器内科) 井川 渉
山下賢之介、齋藤 惇平、小野 盛夫、飛鳥井 邑、
嶋津 英、木村 太郎、大山 祐司、木戸 岳彦、
荻原誠太郎、岡部 俊孝、山本 明和、雨宮 妃、
磯村 直栄、落合 正彦

Ⅲ-13 S-ICD挿入中の患者にVTアブレーションを行なった一例
(公立昭和病院 循環器内科) 松永 紘
朝田 一生、森下 圭、村上 貴彦、大森 康歳、
石原有希子、鴨井 祥郎、田中 茂博

Ⅲ-14 心室期外収縮によって容易に誘発されるslow-fast型房室結節リエントリー性頻拍
(神奈川県立循環器呼吸器病センター) 井口 公平
関井 隆介、児玉 翔、木下 恵、硯川 佳祐、
東 真伊、中山 尚貴、福井 和樹

Ⅲ-15 高解像度マッピングシステム (Rhythmia) により左前側壁副伝導路の逆伝導様式を描出し得たWPW症候群再発例
(東京女子医科大学病院 循環器内科) 塩味 正隆
矢崎恭一郎、柳下 大悟、金井 美和、片岡 翔平、
萩原 誠久
(東京女子医科大学病院 循環器内科/東京女子医科大学病院 循環器内科 先進電気的心臓制御研究部門)
庄田 守男、江島浩一郎

セッションⅢ-4
不整脈2

13:50-14:32

座長 (東京医科歯科大学 循環器内科) 合屋 雅彦
座長 (国立病院機構東京医療センター 循環器内科) 谷本耕司郎

Ⅲ-16 発作性心房細動、心室性期外収縮アブレーション後に骨盤内血腫を発症した一例
(昭和大学横浜市北部病院 循環器内科) 井川 渉
山下賢之介、小野 盛夫、斎藤 惇平、飛鳥井 邑、
嶋津 英、木村 太郎、大山 祐司、木戸 岳彦、
荏原誠太郎、岡部 俊孝、山本 明和、雨宮 妃、
磯村 直栄、落合 正彦

Ⅲ-17 Coherent mappingが低電位領域内の興奮伝播同定に有用だった1例
(NTT東日本関東病院 循環器内科) 山崎 允喬
佐藤 高栄、岩城 大輔、西條 大悟、神馬 崇宏、
澤田 直子、持田高太郎、生富 公康、松下匡史郎、
大西 哲、山崎 正雄

Ⅲ-18 心室細動ストームの機序としてプルキンエ系の関与が示唆された肥大型心筋症の1例
(茨城県立中央病院 循環器内科) 仲野 晃司
吉田健太郎、津曲 保彰、本田 洵也、秋山 大樹、
馬場 雅子、武安 法之
(筑波大学附属病院 循環器内科) 野上 昭彦

Ⅲ-19 偽性心室頻拍により心肺停止に至ったUsher症候群の一例
(信州大学 医学部 循環器内科) 小岩 哲士
岡田 綾子、岡野 孝弘、金井 将史、丸山 周作、
三枝 達也、海老澤総一郎、元木 博彦
桑原宏一郎

Ⅲ-20 重症低K血症により完全房室ブロックと難治性心室細動をきたした一例
(横浜労災病院 循環器内科) 堀米 旭
長田 淳、浅野 駿逸、福澤 朋幸、田中 真吾、
小和瀬晋也、青木 元、柚本 和彦

Ⅲ-21 コロナ禍における日本不整脈心電学会心電図検定試験合格のための医学部一年生に対するリモート授業の経験

(千葉大学 医学部 循環器内科) 船橋 伸禎
小林 欣夫

スポンサーセミナーⅪ
肺高血圧症の病態及び早期診断の基本

16:10-17:00

共催：ヤンセンファーマ株式会社

座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 福田 恵一

(筑波大学医学医療系 循環器内科) 石津 智子

Resident Award

17:10-18:00

座長 (埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科) 村松 俊裕
座長 (東京慈恵会医科大学 内科学講座循環器内科) 吉村 道博
審査委員長 (自治医科大学附属さいたま医療センター 循環器内科) 藤田 英雄
審査委員 (慶應義塾大学 循環器内科) 香坂 俊
審査委員 (日本大学医学部 内科学系循環器内科学分野) 奥村 恭男
審査委員 (国際医療福祉大学 医学部 循環器内科) 田村 雄一

Ⅲ-22 コロナ禍において体外循環式心肺蘇生(Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation:ECPR)を導入した1例
(昭和大学藤が丘病院 循環器内科) 久保田仁美

間瀬 浩、石井 優紀、新井 脩平、手塚 隆弘、
和田 大輔、曾根 浩元、武井 洋介、田代 一真、
関本 輝雄、倉田 征昭、森 敬善、小貫 龍也、
土至田 勉、佐藤 督忠、磯 良崇、江波戸美緒、
鈴木 洋
辻内 美希、正司 真

(昭和大学リハビリテーション病院)

Ⅲ-23 メサラジン内服により急性心筋炎を来した一例
(独立行政法人地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター 循環器内科)

坂本 知也
竹山 誠、谷地 織、今村 堂大、吉田 えり、
檜崎 容史、齋藤 哲也、大道 近也、綾部 征司

Ⅲ-24 当院におけるがん合併肺塞栓症 (CAT-PE) の診療実態とその特徴-がん非合併例との比較-
(防衛医科大学校病院 循環器内科)

宮内 瑛
長友 祐司、市川 愛美、姫野 雅史、雪野 碧、
永沼 嗣、前川原慧則、内藤 朱美、長野 綾佳、
安田理紗子、東谷 卓美、難波 貴之、眞崎 暢之、
足立 健

Ⅲ-25 左下肢の多発動静脈奇形 (クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群) により高心拍出性心不全を来した1例

(杏林大学医学部附属病院 総合研修センター)
(杏林大学 医学部 循環器内科)

岩住衣里子
岡本 陽、菊池 華子、渡邊 貴之、竹内 真介、
竹内かおり、伊波 巧、合田あゆみ、副島 京子

Ⅲ-26 二次予防目的の埋込み型除細動器植込み患者における心臓突然死のリスク因子についての検討
(北里大学病院 臨床研修センター)

佐藤 俊郎
(北里大学医学部 循環器内科学) 中村 洋範、庭野 慎一、阿古 潤哉

第Ⅳ会場

セッションⅣ-1

9:00-9:42

弁膜症・心内膜炎

座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 荒井 隆秀

座長 (防衛医科大学校病院 循環器内科) 安田理紗子

Ⅳ-1 経皮的カテーテル大動脈弁拡張術後の急性大動脈弁閉鎖不全症をカテーテルで制御しえた一例

(新潟大学医歯学総合病院 循環器内科)

坂口 裕太

尾崎 和幸、関谷 祐香、黒川 考国、土谷 浩気、

米山晋太郎、石塚 光夫、久保田直樹、大久保健志、

木村 新平、保屋野 真、柳川 貴央、柏村 健

Ⅳ-2 甲状腺機能亢進症により心不全治療に難渋した重大動脈弁狭窄症の一例

(自治医科大学附属さいたま医療センター 心臓血管外科)

八木 萌香

(東海大学医学部内科学系循環器内科)

永井 知雄、綾部 健吾、河原 洋、長谷川実咲、

坂間 晋、柳下 敦彦、伊莉 裕二

Ⅳ-3 脳血管の血行再建を先行することで脳血管合併症を回避し得た、頸動脈狭窄症を伴う大動脈弁狭窄症の手術経験

(順天堂大学 心臓血管外科)

李 智榮

町田洋一郎、西田 浩介、遠藤 大介、中西 啓介、

嶋田 晶江、土肥 静之、畑 博明、山本 平、

浅井 徹、天野 篤

Ⅳ-4 肺高血圧症に伴う心室中隔圧排に関連したと推察される僧帽弁逸脱症の2例

(国立病院機構 埼玉病院 循環器内科)

徳田 華子

佐々木賢二、丹羽 直哉、鶴見 昌史、田中 宏明、

矢嶋 紀幸、小野 智彦、松村 圭祐、鈴木 雅裕

Ⅳ-5 保存的に加療しえた房室伝導障害を合併したTAVI後感染性心内膜炎の一例

(自治医科大学附属病院 循環器内科)

平田 悠翔

脇 広昂、原田 顕治、高橋 政夫、大場 祐輔、

船山 大、荻尾 七臣

Ⅳ-6 抗菌薬投与後も疣贅が拡大しMICS TVPにて治療しえた三尖弁感染性心内膜炎の1例

(横須賀市立うわまち病院 循環器内科)

前田 幸佑

荒木 浩、浦 穂高、吉田 稔、岡田 拓也、

泊口 哲也、島村 浩正、水政 豊、黒木 茂、

岩澤 孝昌、沼田 裕一

(横須賀市立うわまち病院 心臓血管外科)

安達 晃一

スポンサーDセミナーⅢ

10:40-11:30

積極的脂質低下療法の意義とPCSK9阻害薬への期待

共催：アムジェン株式会社

座長 (北里大学医学部 循環器内科学) 阿古 潤哉

(熊本大学大学院生命科学研究部 循環器内科学)

辻田 賢一

スポンサーDセミナーⅧ

11:40-12:30

出血合併症を重視した冠動脈疾患に対する抗血栓療法

共催：武田薬品工業株式会社

座長 (順天堂東京江東高齢者医療センター 循環器内科) 宮内 克己

(帝京大学医学部附属病院 循環器内科)

上妻 謙

セッションⅣ-2

12:50-13:25

虚血性心疾患1

座長 (昭和大和横浜市北部病院 循環器内科) 磯村 直栄
座長 (足利赤十字病院 心臓血管病センター) 沼澤 洋平

Ⅳ-7 保存的加療で軽快した左室oozing ruptureを伴う急性心筋梗塞の2例

(日本医科大学多摩永山病院 循環器内科)

星加 優
中野 博之、佐藤 達志、西 祐吾、澁谷 淳介、
鈴木 啓士、小谷英太郎

(日本医科大学付属病院 循環器内科)

清水 渉

Ⅳ-8 右冠動脈に対する経皮的冠動脈形成術の際に広範囲医原性大動脈解離を発症した一例

(イムス東京葛飾総合病院 循環器内科)

今峰衣理香
服部 圭悟、中田 晃裕、中野 恵美、白濱 尚治、
小松 宏貴、朴沢 英成

Ⅳ-9 急性大動脈解離術後、大動脈基部再解離に併発した冠動脈解離に対しPCIを行った症例

(東邦大学医学部内科学講座 循環器内科学分野)

岡 洋佑
矢部 敬之、藤野 紀之、大熊新之介、藤井 毅郎、
池田 隆徳、渡邊 善則

Ⅳ-10 高度石灰化病変に対してMiracle12によるTapping methodが奏効したCTOの一例

(聖隷横浜病院 心臓血管センター内科)

眞壁 英仁
芦田 和博、中島 啓介、新村 剛透、河合 慧、
山田 亘、福田 正、宮崎 良央

Ⅳ-11 高安動脈炎に伴う冠動脈炎により急性心筋梗塞をきたした若年女性の一例

(筑波大学 循環器内科)

稲葉 貴久
佐藤 希美、一戸 貴子、平谷 太吾、渡部 浩明、
山本 昌良、星 智也、石津 智子、佐藤 明、
家田 真樹

セッションⅣ-3

13:50-14:32

虚血性心疾患2

座長 (社会医療法人財団大和会 東大和病院 循環器科) 加藤 隆一
座長 (国立病院機構 埼玉病院 循環器内科) 松村 圭祐

Ⅳ-12 急性心筋梗塞で救急搬送された右側大動脈弓の1例。

(SUBARU健康保険組合太田記念病院 循環器内科)

鮫島 雄祐
長島 義宜、高江洲 悟、矢口 知征、能登 辰徳、
清水 貴之、根本 尚彦、安齋 均

Ⅳ-13 硬膜外膿瘍術後、消化管出血合併虚血性心筋症に対してMICS-CABGを施行した一例

(横須賀市立うわまち病院 循環器内科)

山口 雄大
荒木 浩、岩澤 孝昌、吉田 稔、前田 幸佑、
岡田 拓也、泊口 哲也、島村 浩正、黒木 茂、
水政 豊、沼田 裕一

(横須賀市立うわまち病院 心臓血管外科)

安達 晃一

Ⅳ-14 冠拡張薬とステント留置により治療し得た器質的狭窄を伴う前下行枝近位部を中心とした冠攣縮性狭心症の一例

(国家公務員共済組合連合会三宿病院 循環器内科)

菊池 恭史
西田 尚史、山家 充起、中澤 亮太、河合 茜、
湯手 庸道、木村 豊和、北垣 学

IV-15 NSTEMIの発症を契機に診断されたCD36欠損症の一例
(自衛隊中央病院 循環器内科) 山家 充起
渦手 庸道、河合 茜、中澤 亮太、西田 尚史、
木村 豊和、北垣 学

IV-16 MINOCA (MI with non-obstructive coronary arteries) の診断に心臓造影MRIが有用であった1例
(国家公務員共済組合連合会 三宿病院) 中澤 亮太
山家 充起、河合 茜、渦手 庸道、西田 尚史、
木村 豊和、北垣 学

IV-17 補助循環用ポンプカテーテルを用い救命した右冠動脈を責任血管とする急性冠症候群の2例
(北里大学病院循環器内科学) 飯倉早映子
池田 祐毅、木下 大資、橋本 拓弥、佐藤 伸洋、
阿古 潤哉

セッションIV-4 15:00-15:42

心膜・腫瘍・腫瘍循環器 座長 (東京医科歯科大学 循環器内科) 前嶋 康浩
座長 (がん研有明病院 腫瘍循環器・循環器内科) 志賀 太郎

IV-18 トシリズマブ誘発性ループス症候群により心タンポナーデに至った一例
(東京都保健医療公社 大久保病院) 川尻 紘平
宮原 大輔、山崎 優華、森山 優一、谷井 博亘、
岡野 喜史、櫻田 春水

IV-19 心腔内超音波カテーテルガイド下腫瘍生検が診断に有用であった心臓限局性悪性リンパ腫の一例
(武蔵野赤十字病院 循環器科) 佐藤 玲子
渡辺 敬太、原 信博、宮崎 亮一、大方信一郎、
李 哲民、永田 恭敏、野里 寿史、足利 貴志

IV-20 急速な経過で腫瘍形成を来したcalcified amorphous tumorの1例
(虎の門病院 循環器センター外科) 福田ミルザト
井上 堯文、中永 寛、佐藤 敦彦、松山 重文、
田端 実

IV-21 右房壁発生の多房性海綿状血管腫の1例
(東邦大学 医療センター佐倉病院 心臓血管外科) 白井 裕貴
蘭藤 佑哉、石橋 和幸、齋藤 綾、本村 昇
(東邦大学 医療センター佐倉病院 病理診断科) 蛭田 啓之

IV-22 心外膜に発生し心タンポナーデを呈した心臓原発血管肉腫の一例
(藤沢湘南台病院) 吉光寺恵里
大野 睦記、川島 千佳、福島 裕介

IV-23 多発血管炎性肉芽腫症により冠動脈炎をきたした一例

(三井記念病院 循環器内科) 榑田 勇樹
堀内 優、石沢 太基、阿佐美匡彦、矢作 和之、
湯澤ひとみ、小宮山浩大、田中 旬、青木 二郎、
田邊 健吾
(三井記念病院 膠原病内科) 山下 貴大、鈴木 豪

スポンサードセミナーⅫ 16:10-17:00

明日からの循環器診療に役立つ漢方処方

共催：株式会社ツムラ

座長 (国際医療福祉大学医学部 循環器内科学) 河村 朗夫

(神戸海星病院 内科/島根大学医学部) 北村 順

Student Award 17:10-18:00

座長 (東京大学大学院医学系研究科 心臓外科学) 小野 稔
座長 (順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科) 南野 徹
審査委員長 (埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科・不整脈科) 加藤 律史
審査委員 (日本医科大学武蔵小杉病院 総合診療科) 塚田 (哲翁) 弥生
審査委員 (獨協医科大学 心臓・血管内科/循環器内科 救命救急センター) 菊地 研
審査委員 (聖マリアンナ医科大学 循環器内科) 明石 嘉浩

IV-24 COVID-19感染を契機に心不全を発症し、心拍controlに難渋した患者に対してイバブラジンは有効であった症例

(東京女子医科大学 医学部 3年) 加納 由奈
(東京女子医科大学 循環器内科) 関口 治樹、野本美智留、菊池 規子、鈴木 敦、
萩原 誠久
(東京女子医科大学 呼吸器内科) 有村 健
(東京女子医科大学 感染症科) 菊池 賢
(東京女子医科大学 総合診療科) 川名 正敏

IV-25 心電図自動解析におけるノッチ型P波の改良の試み

(自治医科大学 医学部医学科) 加藤 直人
藤井陽加エイプリル、宮井 秀彬、宮川 洋一
(自治医科大学内科学講座 循環器内科学) 甲谷 友幸、苅尾 七臣

IV-26 漏斗胸に対するNuss手術成功後に新規出現するV5, 6誘導での棘波伴うfragmented QRS波と心臓圧排度との関連

(千葉大学 医学部 医学科) 大塚 玲
(千葉大学 医学部 循環器内科) 船橋 伸禎、小林 欣夫
(群馬県立心血管センター 循環器内科) 中村 紘規、佐々木健人、内藤 滋人

IV-27 心臓MRI検査における拡散強調画像の有用性の検討

(防衛医科大学校 医学部) 桑木 峻平
(防衛医科大学校 循環器内科) 鏡 和樹、東谷 卓美、佐藤 篤志、弓田 悠介、
大崎 歩、難波 貴之、長友 祐司、眞崎 暢之、
足立 健
(防衛医科大学校 放射線科) 林 克己

IV-28 イブシロン波は不整脈源性右室心筋症で出現し、肺高血圧で出現しないのか？両疾患の病態相違の文献的考察

(千葉大学 医学部 医学科) 富田 大樹
田中 未都、岡本 昌大
(千葉大学 医学部 循環器内科学) 船橋 伸禎、小澤 公哉、小林 欣夫
(千葉大学 医学部 呼吸器内科学) 田邊 信宏、巽 浩一郎
(群馬県立心臓血管センター 循環器内科) 中村 紘規、佐々木健人、内藤 滋人

第V会場

セッションV-1
静脈・肺高血圧

9:00-9:21

座長 (杏林大学医学部 循環器内科学) 伊波 巧
座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 平出 貴裕

V-1 上肢静脈血栓症を伴った胸郭出口症候群の一例
(国立病院機構 高崎総合医療センター)

村田 智行
伊藤 芽以、湯浅 直紀、羽鳥 直樹、久野 貴弘、
高橋 伸弥、小林 紘生、小林 洋明、太田 昌樹、
福田 延昭、広井 知歳

V-2 腸間膜静脈血栓症に対しリパーロキサパンが有効であった1例
(北信総合病院 循環器内科)

山本 勇輝
渡辺 徳、清水 貴裕

V-3 低用量エドキサパンで加療中に再増悪をきたした慢性血栓塞栓性肺高血圧の一例
(東京医科大学 医学部 循環器内科)

中山 知章
山下 淳、佐々木雄一、伊藤 有紀、寶田 顕、
近森大志郎
(東京医科大学 医学部 心臓血管外科) 荻野 均

スポンサードセミナーⅣ
虚血性心疾患評価におけるFFRとCFR評価

10:40-11:30

共催：アボットメディカルジャパン合同会社
座長 (国家公務員共済組合連合会 虎の門病院) 山口 徹
座長 (東京女子医科大学) 萩原 誠久

(東邦大学医療センター大橋病院)

中村 正人

セッションV-2
末梢血管・大動脈

12:50-13:18

座長 (日本大学医学部 外科学系心臓血管外科分野) 瀬在 明
座長 (自治医科大学附属病院 循環器内科学部門) 今井 靖

V-4 膝窩動脈外膜囊腫による間欠性跛行を認めた1例
(順天堂大学医学部附属浦安病院 循環器内科)

山本 陽平
大内 翔平、平林 洸紀、阿部 寛史、矢部 功祐、
牧 正彬、島井 亮輔、磯貝 浩之、和田 剛、
尾崎 大、小田切史徳、宮崎 哲朗、横山 健、
戸叶 隆司
(順天堂大学医学部附属浦安病院 心臓血管外科) 大野 峻哉、齋藤 洋輔、稲葉 博隆
(順天堂大学医学部附属順天堂医院 循環器内科) 南野 徹

V-5 巨大卵巣腫瘍による肺血栓塞栓症に対し経皮的心肺補助装置を確立したが送血不良により救命できなかった一例

(横浜労災病院 循環器内科)

笹島 康平
植田 智美、福澤 朋幸、田中 真吾、長田 淳、
青木 元、柚本 和彦

V-6 SLEに合併した急性大動脈解離術後に右室瘻をきたした1例
(順天堂大学医学部附属練馬病院 心臓血管外科)

嶋田 晶江
山本 平
(順天堂大学医学部 心臓血管外科) 浅井 徹、天野 篤

V-7 スtent留置後に発症した炎症性腹部大動脈瘤の1例

(順天堂大学医学部附属浦安病院 循環器内科)

佐藤瑛一郎

大内 翔平、平林 洸紀、阿部 寛史、矢部 功祐、

牧 正彬、島井 亮輔、磯貝 浩之、和田 剛、

尾崎 大、小田切史徳、柳沼 憲志、宮崎 哲朗、

横山 健、戸叶 隆司

南野 徹

(順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科)

学術委員会セッション

15:00-16:30

心不全治療の残された課題 HFpEFに挑む 期待される新しい治療

座長 (慶應義塾大学医学部 循環器内科) 白石 泰之

座長 (千葉大学医学部附属病院 循環器内科) 岩花 東吾

既存の心不全治療薬の収縮力が保たれた心不全 (HFpEF) に対する臨床試験の成績

(東京大学大学院医学系研究科重症心不全治療開発講座)

波多野 将

HFpEFの病態と、既存心不全治療のメカニズム (基礎医学的見地から)

(信州大学 医学部 循環器内科)

桑原宏一郎

既存の心不全治療薬のHFpEFへの応用の可能性

(慶應義塾大学医学部 循環器内科)

佐野 元昭

デバイスによる新しいHFpEF治療の可能性

(富山大学第二内科)

絹川弘一郎

スポンサードセミナー XIII

17:10-18:00

TAVI Optimization

共催：エドワーズライフサイエンス株式会社

座長 (昭和大学江東豊洲病院 循環器内科) 若林 公平

変化する弁膜症治療最前線

(聖マリアンナ医科大学病院 循環器内科)

奥山 和明

長期予後を見据えたサピエン3の使用

(東京大学医学部附属病院 循環器内科)

三浦 瑞樹

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。

2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。

2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。

2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。

2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。

2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。

2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第16条 各支部は地方会を年1回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後2ヵ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第17条 各支部はJCS-ITC講習会をJCS-ITC担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20万円未満が支部長承認、20万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

(目的)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

(支部役職者及び支部職員の責務)

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規程は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部運営内規

(総則)

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会 支部規程を関東甲信越支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

(支部事務局)

第2条 本支部における支部事務局を東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内に設置する。

(支部長)

第3条

- 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は7月1日からとする。
- 支部長は日本循環器学会の関東甲信越地区で選出された理事の互選によって決定され、当該年度における本支部の事務を処理する。
- 支部規程第6条の4項に沿い、支部長の任期は2年とし再任を妨げないとするが、本支部における支部長の連続して就任できる期数は2期（通算4年）までとする。
- 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部役員)

第4条

- 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部に所属する社員から支部長が推薦した者が務める。
- 支部役員の定数は、本支部においては16名程度とする。内訳としては支部に所属する理事（関東甲信越地区、女性、小児科、外科）とその他の役員とする。
- 支部役員は、関東甲信越地区の理事が推薦する、教授または部長以上の支部所属の社員とし、任期2年で再選は妨げない。関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
- 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部監事)

第5条

- 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。
- 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、支部長が候補者を社員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
- 監事は本支部の会計その他の事務遂行状況の監査を行うものとする。その任期は2年とし、再任はさまたげない
- 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

(支部幹事)

第6条

- 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC 講習

- 会担当幹事 1 名、ダイバーシティ推進委員会担当幹事 1 名とし、支部役員との兼務も可能とする。
3. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
 4. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。
 5. 支部幹事は、会員の中から選出することとし、関東甲信越地区理事による理事会にて決定する。
 6. 支部幹事は、それぞれの業務において投資（JCS-ITC 講習会用のマネキン、事務局運営用のパソコン等）が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）

第 7 条

2. 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、現任の支部評議員の推薦により選出し、支部評議員会において承認する。
3. 推薦人は、支部評議員会予定日より 15 日以前に候補者の推薦書を支部事務局へ提出する。
4. 有資格者でありながら推薦人が見当たらない場合は、支部長が推薦人となる事が出来る。
5. 支部評議員の被推薦資格は、以下の 3 項をすべて満たすこととする。
 - 1) 65 歳以下で 7 年以上日本循環器学会会員であること
 - 2) 講師又は医長以上である者、または、本会学術集会において特別講演講師、教育講演講師、シンポジウム、パネルディスカッション、ファイヤーサイドカンファランスの演者を担当したことがあるもの
 - 3) 本支部地方会において過去 5 年間に 3 演題以上発表（共同演者でよい）していること。但し、基礎研究者・外科医・小児科医については別途考慮する。

（地方会会長）

第 8 条

2. 支部規程第 11 条に定める地方会会長の選出方法は以下のとおりとする。
 - 1) 資格 : 教授または部長以上の本支部評議員
 - 2) 推薦方法 : 評議員による他薦または自薦に基づき、支部長が提案し支部役員会で選出の上、支部社員総会で承認する。
 - 3) 推薦時期 : 支部役員会開催予定日より 15 日以前に支部長に推薦書を送付する。
3. 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規定」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
4. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
5. 地方会会長は、地方会開催場所・日程の決定を行う。
6. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
7. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
8. 地方会運営にあたる企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
9. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設する。口座

開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のもので利用出来ない体制を構築しなければならない。

10. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

(支部役員会、支部社員総会、関東甲信越地区理事会、支部評議員会)

第9条

2. 支部規程第12条に定める支部役員会は、年1回開催とする。
3. 支部規程第13条に定める支部社員総会は、年1回開催とする。
4. 関東甲信越地区理事による理事会は、年2回開催とする。
5. 支部評議員会は、年3回開催とする

(支部事務局業務)

第10条

2. 支部規程第15条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。
3. 上記1項の方法以外に、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。(契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。)

(地方会)

第11条

2. 支部規程第16条1項に定める地方会について、本支部は毎年4回地方会を開催する。
3. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会関東甲信越地方会とする。
4. 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。また、その抄録データを本会に提出する。
5. 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部より、助成金90万円を地方会事務局に交付する。助成金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
6. 地方会の参加費は要領に別途定めたとおりとするが、参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
7. 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。
8. 地方会における華やかな懇親会の開催を禁じる。
9. 地方会当日の現金(参加費)の取扱いにおいて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
10. 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
11. 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会口座に振込し、次回以降の地方会補助金とする。その後、口座は解約する。
12. 非会員の招請者、支部役員への待遇については要領に別途定めたとおりとするが、これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。

13. 地方会時の専門医単位登録について、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
14. 地方会演者は、発表時に定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
15. 本支部地方会会長は、若手循環器専門医の育成を目的として、Student Award、Resident Award、Clinical Research Award、Case Report Award を設け、各賞最優秀演題発表者1名、優秀賞2名を顕彰する。実施要領は別途定めた通りとする。

(JCS-ITC 講習会)

第12条

2. 年4回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
3. JCS-ITC 講習会の事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）については支部事務局において実施する。ただし業務の円滑化を目的として、外部の業者や個人への業務委託を行ってもよい。委託にあたっては支部との間に契約が必須となる。（契約書において、資金管理面での過誤が無いように努めること、不正を行わないことを明記し、不正を行った場合の損害賠償を行う旨、記載すること。）
4. コース開催日程は、各支部ホームページに掲載することとする。
5. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。専用口座の取扱については、要領に別途定めたとおり慎重に行う。
6. コース開催時にコースディレクター等が立替精算をした場合は要領に別途定めたとおりに行い、不必要な経費支出は慎むこと。
7. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクを一覧化し（以下インストラクター・タスク一覧）、各自立替えしたコース開催地までの交通費を纏め、支部事務局（または外部委託している業者・個人）へ提出しなければならない。また、受講料収益と使用経費を一覧化し、コース毎の収支実績を作成し、合せて支部事務局へ提出する。
8. 各コースディレクターがコースに必要な資金を事前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 幹事のメール承認を要する。
なお、ITC 幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。
9. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛での領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
10. 支部事務局（または外部委託している業者・個人）は、提出されたインストラクター・タスク一覧、旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金額についてはJCS-ITC 規定に則る。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
11. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。

(支部委員会)

第13条

2. 支部長は、本支部の事業の円滑な推進を図るため必要があると認めるときは、役員会の決議を経て、委員会を設置することができる。なお、これを廃止する場合も同様とする。
3. 前条の委員会は、必要に応じて部会、小委員会を組織することができる。
4. 委員会は、目的、委員構成、業務などを規定した支部委員会内規を作成し、役員会の承認を得なければならない。
5. 委員会は、委員長1名および委員若干名で組織する。
6. 委員長は支部長が支部役員の中から指名し、役員会の議を経て選任する。
7. 必要に応じて委員の中から副委員長を置くことができる。
8. 副委員長、委員は委員長が指名し、役員会の議を経て選任する。

附則

- 1) この内規は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

令和元年9月28日一部改定

令和2年9月5日一部改定

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 学術委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部学術委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、日本循環器学会関東甲信越支部の学術活動を支援することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会の学術面の向上について検討・協議し、役員会および会長に上申する。

2) その他学術活動に対する支援に必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 情報・広報委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部情報・広報・啓発委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、本会のホームページやインターネットを利用した学会員への情報の提供、学術成果の社会への公開と還元、国内外の関連学会の情報提供交換等に関する活動を実施することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 学会のホームページの作成、管理及び運用
- 2) インターネットによる本会の情報サービス
- 3) 国内外の関連学会等との情報交換と広報活動
- 4) その他必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 ダイバーシティ推進委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部ダイバーシティ推進委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器学分野における男女並びに多種多様人材の共同参画の推進を図り、男女並びに多種多様人材の共同参画の視点に立った教育・研究・就業体制を確立するため、企画・立案・実施に当たることを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 国内外の関連学会・団体等との情報交換および連携
- 2) 地方会でのダイバーシティ推進セッション等の企画立案・実施
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 チーム医療委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部チーム医療委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会におけるコメディカルとの関わり方の検討および、コメディカル関係の諸学会との連絡調整を行う。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。

3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

1) 地方会におけるコメディカルの位置付けの検討および、コメディカル関係学会との連絡調整をする。

2) 関係諸学会からの依頼に応じて、本委員会において代表の派遣などを選考する。

3) 委員は、関係諸学会への渉外を担当し、外部機関の要請に応じてこれらが主催する会議等に本学会の代表として出席する。

4) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 地方会あり方検討委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部地方会あり方検討委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、地方会を活性化することを目的とし、地方会のあり方を検討・協議し、役員会および会長に上申する。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) 若手、女性、メディカルスタッフの参加促進策を検討・協議する。
- 2) 地方会プログラムの充実化を検討・協議する。
- 3) その他必要な業務

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

一般社団法人日本循環器学会 関東甲信越支部 予防委員会内規

(設置)

第1条 関東甲信越支部運営内規第13条に基づき、本支部に一般社団法人日本循環器学会関東甲信越支部予防委員会（以下、「本委員会」という）を置く。

(目的)

第2条 本委員会は、循環器疾患等の予防に関する事柄について、協議・検討し、役員会上申することを目的とする。

(組織)

第3条 本委員会は、委員長1名、委員若干名を以って組織する。

(委員)

第4条 委員長は役員とし、役員会の議を経て、支部長が委嘱する。

2. 委員は、委員長が指名し支部長が委嘱する。
3. 委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会)

第5条 本委員会は委員長が召集し、議長となる。

2. 本委員会の審議事項は、役員会に報告し、承認を得なければならない。

(業務)

第6条 本委員会は、第2条の目的達成のために次の業務を行う。

- 1) すべての国民の循環器疾患等の予防を推進する業務。
- 2) 予防活動を積極的に推進し、その重要性を社会に発信する業務。
- 3) 循環器疾患等の予防研究の実施ならびに支援。
- 4) その他、循環器疾患等の予防に関する必要な業務。

(計画・予算)

第7条 委員長は、年度毎に業務計画とその遂行に必要な予算について、当該年度開始前に役員会に諮らなければならない。

(報告)

第8条 委員長は、任期終了時においては、任期中の活動報告を役員会に提出し、次期委員会へ引き継がなければならない。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、役員会の承認を得なければならない。

附 則 この内規は、令和元年9月28日より施行する。

令和2年9月5日一部改訂

まだないくすりを
創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

明日は変えられる。



アステラス製薬株式会社

www.astellas.com/jp/



ホスホジエステラーゼ5阻害薬 薬価基準収載

レバチオ® 錠20mg
ODフィルム20mg
懸濁用ドラインロップ900mg

シルデナフィルクエン酸塩錠/シルデナフィルクエン酸塩口腔内崩壊フィルム/シロップ用シルデナフィルクエン酸塩
処方箋医薬品 注意—医師の処方箋により使用すること

製造販売
ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木 3-22-7
新宿クイントビル
資料請求先：製品情報センター
販売提携
ヴィアトリス製薬株式会社
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 3-22-7
新宿クイントビル

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等の詳細は、添付文書をご参照ください。

2020年12月作成
RVT72C014F

